

平成 28 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」(高齢者いきいきセンター)

開催日時	平成 28 年 10 月 28 日 (金) 午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場所	高齢者いきいきセンター	
町民参加者	男 23 人 女 2 人 (40 代以下 0 人、50 代 0 人、60 代以上 25 人)	
町出席者	町長、副町長、教育長、参事兼企画政策課長、参事兼農林課長、総務防災課長、環境課長、学校教育課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

《テーマ：町政全般》

○熊本地震でも緊急物資が各所に行き渡らないことが問題になっていた。岸の避難所が川村小学校になっているが、平山ー松田北断層帯の一部に小学校が入っており、小学校の北側は急傾斜地で土砂崩れの危険がある場所となっている。川村小学校だけで避難所の目的が果たせるのか疑問を持っている。豪雨のときには自主避難場所として岸幼稚園やいきいきセンターなどに避難することも良いとなっているが、地震のときにも同様に行い、町としても事前に把握してもらえれば緊急物資も行き渡るのではないかと。

○避難場所になっているような高い建物の場合、多くが建物の上に貯水タンクを設置しており、途中の配管やタンク自体がダメになるとトイレが使えなくなる。人が集まってもトイレがまったく使えないのは大変なことである。そのため、一階部分については、本管から直接ぎ、トイレを使えるようにするなどの対策が必要ではないかと。

○防災計画には、地震や水害については細かく載っていると思うが、火山についてはそれほど大きく行動指針が載っていなかったと思う。火山については、火山灰が積り長い時間の対応が必要と考えるが、その対応についてどうなっているのか。

○湯坂地区と日向地区について、場所として非常に危険であり、実際に大きな地震が起きた際には他に出ていくこと自体が危険であるため、孤立することが考えられる。一時避難場所である日向の活性化施設は新しい施設のため耐震構造は大丈夫だと思うが、湯坂の公民館はかなり古いため、耐震の診断を自治会から要望した場合はどのように対応してもらえるのか。

○湯坂地区は高齢化していて、回覧板を持っていくこと自体が大変であり、5年・10年後に回覧板の機能を維持していくことが可能であるのか疑問を持っているため、それに代わる何かを考えているのか。また、対策が必要ではないかと考えている。

○9月に県のほ場整備課から回覧依頼が連合自治会長にあった。内容は1日100台、往復で200台のダンプカーを延べ30日間通行させたいとのことであった。連合だけでは勝手に判断出来ないため、地域に対して県に説明会を行ってもらい、現在では1日50台で5日間で終わらせるように検討しているとの連絡があったが、県の道路維持課から回覧の依頼があり、今度は川村小学校前の県道74号を一方通行にするという回覧が回った。町としても県からそのような話があったら、その都度県にもの申してもらいたい。